

課題番号 : 27指1304

研究課題名 : 肝炎総合対策における評価指標策定と実地運用に関する研究
～肝疾患診療連携拠点病院ネットワークにおける効果的施策のために～

主任研究者名 : 酒匂赤人

分担研究者名 : 正木尚彦、東 尚弘、山極洋子

キーワード : 肝炎総合対策、肝疾患診療連携拠点病院、評価指標

研究成果 :

肝疾患診療連携拠点病院ネットワーク構築のうえ、平成20年度より肝炎総合対策が開始され9年が経過した現在、対策の見直しにおいて施策の評価指標が必要とされた。初年度は、既存の調査等から評価指標候補選定を行うことを目標とし、以下の3つの分担研究課題について検討した。

1. 肝炎総合対策における地域特性に基づく課題の把握および施策評価のための指標候補の選定

他分野の主体からなる指標策定の場合へ提案する指標候補の選定のため、肝炎情報センターが実施してきた現状調査について検討したところ、全国における活動の総数としては、肝臓病教室開催件数増加など一部において向上が見られるものの、相談件数の頭打ちなど活動の低迷が認められた。また、各活動において施設間格差が明らかとなり、特に施設ごとの相談件数および研修会参加人数に関して、事業費のほか人員の配置等の関与が示唆された。しかしながら、対策の目標が明確にされていないため、事業における関連の評価が困難であり、目標の設定を含む事業計画、および施策と業務を構造化した評価指標策定し、各施設および自治体の特徴に応じた効果的な事業運営について検討する必要があると考えられた（第51回日本肝臓学会総会主題演題発表、平成27年5月）。

2. 地域特性を勘案した肝炎総合対策における評価指標の考察

肝炎診療連携病院および県の担当者を対象とした東北地区肝炎ブロック会議において、現状調査では把握できなかった、診療支援、院外健康教育活動、検診フォローアップ体制構築など好事例の提示のほか、行政との連携、地理的な障壁の課題が挙げられる一方、広域圏における医療について協力連携などの提案がなされた。情報共有のみならず評価方法の検討に際しても実施主体の合意が重要と考えられた。

3. がん対策の評価指標策定手法の応用可能性の検討

行政事業レビュー後の肝炎総合対策において指標の重要性が認識される中、都道府県肝疾患診療連携拠点病院責任者向け研修会において、過程および結果の観点からの評価であること、指標とその基準について関係者の総意により決定することの重要性、また、評価の目的を、事業の改善ではなく、判断の根拠とすることへの懸念もふくめ、先行しているがん対策推進基本計画に対する評価指標策定における手法および課題等について情報提供を行った。

初年度に肝炎総合対策に対する行政事業レビューが行われ、対策の効果評価が不十分であることが指摘され、評価指標の活用など事業運営について改善を求められた。さらに、2年度に肝炎対策基本指針が改正され、各事業の強化とともに指標を組み入れた事業計画に基づいた運営の構築等進められるべき方向性が示されたほか、「肝硬変又は肝がんへの移行者を減らす」ことが指針の目標として初めて明示され、肝炎情報センターの機能化及び拠点病院の役割が明確にされた。さらに、肝炎対策推進室における対策の詳細の検討が1年をかけて行われ、本研究の2年度は、新指針、対策推進協議会議事録、厚労科研報告書等を踏まえ、政策の理論評価および指標選定の根拠となる肝炎対策のロジックモデルを作成し、指標候補選定の作業を行った。新体制における各施設の活動の方向性が指標策定により誘導されることが懸念されたため、意見集約および具体的な指標策定は、3年度目に持越されることになった。

Subject No. : 27A1304

Title : Research on development and implementation of evaluation indicators of the comprehensive measures for hepatitis in Japan

Researchers : Akahito Sako, Naohiko Masaki, Takahito Higashi, Yoko Yamagiwa

Key word : Comprehensive measures for hepatitis in Japan, Core-center hospitals, evaluation indicators

Abstract :

In comprehensive measures for hepatitis since FY 2008, indicators of the measures were needed for evaluation of the projects. In the first fiscal year, we examined the followings.

1. Identification of tasks based on regional characteristics in hepatitis comprehensive measures to select indicator candidates for policy evaluation

In the survey of the core center hospitals by the Hepatitis Information Center, some activities such as consultations were sluggish, while some improvements such as liver disease class were seen. In addition, disparity among facilities in each activity became clear. It was necessary to consider the relevance of projects and effective business management according to the plan based on clarification of the goal of measures.

2. Regional characteristics in hepatitis comprehensive measures

At the Tohoku region conference for the core center hospitals, good practices such as out-of-hospital health education activities which could not be detected in the survey, geographical barrier issues, and proposals such as cooperation on medical treatment in boundary area were presented. It was important to share not only information but also evaluation process.

3. Possibility of application of evaluation method for cancer control

In selection of evaluation indicators in cancer control, both viewpoints of process and results were necessary in evaluation, and deciding on the consensus of stakeholders was important. It was concerned the purpose of the evaluation was not the improvement of project but the judgment of facilities.

In the first year, it was pointed out that evaluation of the measures was inadequate, and improvement of business management such as indicators was requested in administrative project review on the comprehensive measures against hepatitis. In the second year, the Basic Guidelines for Hepatitis Measures was revised. The goal of the measures, to reduce patients with progression to liver cirrhosis and cancer, strengthening each project based on the business plan with direction of indicators, and the role of Hepatitis Information Center and core center hospitals were clarified. Furthermore, details of the measures were planned over a year, and in the second year of this study, the policy theory was examined to select index candidates, with a logic model using the new guidelines, the meeting proceedings, the research reports.

Researchers には、分担研究者を記載する。

27指1304肝炎総合対策に評価指標策定と実地運用に関する研究

肝炎対策における評価指標策定のためのロジックモデル考案

全体目標

肝硬変・肝がんへの
移行者が減少する。

個別目標

1. 新たな感染が防止される。

2. 感染者が早期に発見される。

3. 陽性者が早期に治療される。

4. 居住地に関わらず専門医療を受けることができる。

5. 偏見・差別を受けることがなく医療を受けることができる。

6. 就労を維持し医療を受けることができる。

7. 肝疾患に関する不安を軽減することができる。

8. 適正に肝炎対策を推進することができる。

安心して治療を受けられる
社会を構築する。

課題番号 : 27指1304
研究課題名 : 医療経済評価を勘案した肝炎総合対策における評価指標の考察
主任研究者名 : 酒匂赤人
分担研究者名 : 酒匂赤人
キーワード : 肝炎総合対策、肝疾患診療連携拠点病院、評価指標

研究成果 :

肝疾患診療連携拠点病院ネットワーク構築のうえ、平成 20 年度より肝炎総合対策が開始され 9 年経過した現在、対策の見直しにおいて施策の評価指標が必要とされた。初年度は、既存の調査等から評価指標候補選定を行うことを目標とし、以下の 3 つの分担研究課題について検討した。

1. 肝炎総合対策における地域特性に基づく課題の把握および施策評価のための指標候補の選定
2. 地域特性を勘案した肝炎総合対策における評価指標の考察
3. がん対策の評価指標策定手法の応用可能性の検討

上記 1 において、肝炎情報センターが実施してきた現状調査において、対策の目標が明確にされていないため、事業における関連の評価が困難であり、目標の設定を含む事業計画、および施策と業務を構造化した評価指標策定し、各施設および自治体の特徴に応じた効果的な事業運営について検討する必要があると考えられた（第 51 回日本肝臓学会総会主題演題発表）。また、平成 27 年 6 月に開催された行政事業レビューの中で、肝炎総合対策における効果評価が不十分であることが指摘され、施設間格差是正のため、評価指標の活用など事業運営について改善を求められた。これを受け、肝炎対策基本指針は見直し作業に入り、各事業の強化とともに指標を組み入れた事業計画に基づいた運営を構築する方向となり、肝炎総合対策における評価指標の重要性が、対策の関係者のみならず外部評価者においても認識された。

特に、本対策による医療費抑制効果の評価、各事業の効果と予算配分の根拠の提示の必要性が強調された。分担研究 1 における医療経済評価の検討について本分担研究課題として独立させた。肝不全死、肝がん発生率に対する、既存の治療法の抑制効果、新規薬剤における統計学的モデルによる試行等、国内外の先行研究の検討およびレセプトデータ、DPC データを用いた評価指標検証のための予備的な検討を行った。上記 1 の 2 年度は、新指針、対策推進協議会議事録、厚労科研報告書等に基づいて、政策の理論評価および指標選定の根拠となる肝炎対策のロジックモデルを作成し、各活動の系統的な位置づけや関連性を明らかにし、指標のデータ源としての活用が予定された。

課題番号 : 27指1304
研究課題名 : 地域特性を勘案した肝炎総合対策における評価指標の考察
主任研究者名 : 山極洋子→酒匂赤人
分担研究者名 : 正木尚彦

キーワード : 肝炎総合対策、肝疾患診療連携拠点病院、評価指標

研究成果 :

肝疾患診療連携拠点病院ネットワーク構築のうえ、平成 20 年度より肝炎総合対策が開始され 9 年経過した現在、対策の見直しにおいて施策の評価指標が必要とされた。

初年度は、肝炎診療連携病院および県の担当者を対象とした東北地区肝炎ブロック会議において、現状調査では把握できなかった、診療支援、院外健康教育活動、検診フォローアップ体制構築など好事例の提示のほか、行政との連携、地理的な障壁の課題が挙げられる一方、広域圏における医療について協力連携などの提案がなされた。情報共有のみならず評価方法の検討に際しても実施主体の合意が重要と考えられた。

また、肝炎総合対策に対する行政事業レビューにて、対策の効果評価が不十分であることが指摘され、評価指標の活用など事業運営について改善を求められた。さらに、2 年度に肝炎対策基本指針が改正され、各事業の強化とともに指標を組み入れた事業計画に基づいた運営の構築等進められるべき方向性が示されたほか、「肝硬変又は肝がんへの移行者を減らす」ことが指針の目標として初めて明示され、肝炎情報センターの機能化及び拠点病院の役割が明確にされた。さらに、肝炎対策推進室における対策の詳細の検討が 1 年をかけて行われた。

本課題の 2 年度は、新指針、対策推進協議会議事録、厚労科研報告書等を踏まえ、政策の理論評価および指標選定の根拠となる肝炎対策のロジックモデル作成、指標候補選定作業に対し、平成 28 年 9 月、同 29 年 3 月の研究進捗会議において助言を行った。

課題番号 : 27指1304
研究課題名 : がん対策の評価指標策定手法の応用可能性の検討
主任研究者名 : 酒匂赤人
分担研究者名 : 東 尚弘

キーワード : 肝炎総合対策、肝疾患診療連携拠点病院、評価指標

研究成果 :

肝疾患診療連携拠点病院ネットワーク構築のうえ、平成 20 年度より肝炎総合対策が開始され 9 年が経過した現在、対策の見直しにおいて施策の評価指標が必要とされた。

初年度は、都道府県肝疾患診療連携拠点病院責任者向け研修会において、過程および結果の観点からの評価であること、指標とその基準について関係者の総意により決定することの重要性、また、評価の目的を、事業の改善ではなく、判断の根拠とすることへの懸念もふくめ、先行しているがん対策推進基本計画に対する評価指標策定における手法および課題等について情報提供を行った。

また、肝炎総合対策に対する行政事業レビューが行われ、対策の効果評価が不十分であることが指摘され、評価指標の活用など事業運営について改善を求められた。さらに、2 年度に肝炎対策基本指針が改正され、各事業の強化とともに指標を組み入れた事業計画に基づいた運営の構築等進められるべき方向性が示されたほか、「肝硬変又は肝がんへの移行者を減らす」ことが指針の目標として初めて明示され、肝炎情報センターの機能化及び拠点病院の役割が明確にされ、肝炎対策推進室における対策の詳細の検討が 1 年をかけて行われた。

本課題の 2 年度は、評価指標に基づいて第 3 期がん対策推進基本計画の見直し作業があり、肝炎対策新指針、対策推進協議会議事録、厚労科研報告書等を踏まえ、政策の理論評価および指標選定の根拠となる肝炎対策のロジックモデルを作成し、指標候補選定の作業の助言を行った。

また、現在国際的にも感染性疾患において肝炎に関連する疾病負担の改善が乏しいことから肝炎対策が積極的に推進されており、わが国における肝炎対策の国外への応用可能性、また国内における課題としても検討するため、国際的な活動機関における知見を収集した。

課題番号 : 27指1304
研究課題名 : 肝炎総合対策における地域特性に基づく課題の把握および施策評価のための指標候補の選定
主任研究者名 : 酒匂赤人
分担研究者名 : 山極洋子
キーワード : 肝炎総合対策、肝疾患診療連携拠点病院、評価指標

研究成果 :

肝疾患診療連携拠点病院ネットワーク構築のうえ、平成20年度より肝炎総合対策が開始され9年が経過した現在、対策の見直しにおいて施策の評価指標が必要とされた。

初年度には、肝炎総合対策における地域特性に基づく課題の把握および施策評価のための指標候補の選定のため、肝炎情報センターが実施してきた現状調査について検討した。全国における活動の総数としては、肝臓病教室開催件数増加など一部において向上が見られるものの、相談件数の頭打ちなど活動の低迷が認められた。また、各活動において施設間格差が明らかとなり、特に施設ごとの相談件数および研修会参加人数に関して、事業費のほか人員の配置等の関与が示唆された。しかしながら、対策の目標が明確にされていないため、事業における関連の評価が困難であり、目標の設定を含む事業計画、および施策と業務を構造化した評価指標策定し、各施設および自治体の特徴に応じた効果的な事業運営について検討する必要があると考えられた（第51回日本肝臓学会総会主題演題発表(平成27年5月)）。

また、肝炎総合対策に対する行政事業レビューが行われ、対策の効果評価が不十分であることが指摘され、評価指標の活用など事業運営について改善を求められた。さらに、2年度に肝炎対策基本指針が改正され、各事業の強化とともに指標を組み入れた事業計画に基づいた運営の構築等進められるべき方向性が示されたほか、「肝硬変又は肝がんへの移行者を減らす」ことが指針の目標として初めて明示され、肝炎情報センターの機能化及び拠点病院の役割が明確にされた。さらに、肝炎対策推進室における対策の詳細の検討が1年をかけて行われた。

本研究の2年度は、新指針、対策推進協議会議事録、厚労科研報告書等に基づいて、政策の理論評価および指標選定の根拠となる肝炎対策のロジックモデルを作成し、指標候補選定の作業を行った。新体制では、啓発から治療に至る一連の活動における肝炎医療コーディネーターの活用、治療と就労の両立に重点が置かれた。特に、肝炎医療コーディネーターの活用については、ロジックモデルによる系統的な活動の位置づけを行い、また自治体の状況を考慮し、効果的な配置を検討する必要があると考えられた。就労支援については、他の医療政策における支援と協働し効率的な活動基盤を構築するほか、肝疾患特有の対応について、患者のみならず患者を支援する事業者、産業保健スタッフ、産業保健支援センター等への情報提供、相談を含めた支援の方法を検討する必要があると考えられ、ロジックモデルに組み込むことにより、各ステークホルダーの役割の関連性を明らかにすることが可能と考えられた。

またロジックモデルにおいて施策における各活動を俯瞰することにより、今回強調されていないものの、新規感染の予防等、継続的な対策の活動の必要性も明らかとなった。

各施設の活動の方向性が指標策定により誘導されることが懸念されたため、意見集約および具体的な指標策定は、3年度目に持越されることになった。

研究発表及び特許取得報告について

課題番号：27指1304

研究課題名：肝炎総合対策における評価指標策定と実地運用に関する研究

主任研究者名：酒匂赤人

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
Development of diabetes mellitus associated with quetiapine: A case series.	Nanasawa H1, Sako A, Mitsutsuka T, Nonogaki K, Kondo T, Mishima S, Uju Y, Ito T, Enomoto T, Hayakawa T, Yanai H.	Medicine (Baltimore).	96(3):e5900	2017
Statistics of bone sarcoma in Japan: Report from the Bone and Soft Tissue Tumor Registry in Japan.	Ogura K, Higashi T, Kawai A.	J Orthop Sci.	22(1):133-143	2017
Prescription of Prophylactic Antiemetic Drugs for Patients Receiving Chemotherapy With Minimal and Low Emetic Risk.	Okuyama A, Nakamura F, Higashi T.	JAMA Oncol.	3(3):344-350	2017
Effects of financial support on treatment of adolescents with growth hormone deficiency: a retrospective study in Japan.	Maeda E, Higashi T, Hasegawa T, Yokoya S, Mochizuki T, Ishii T, Ito J, Kanzaki S, Shimatsu A, Takano K, Tajima T, Tanaka H, Tanahashi Y, Teramoto A, Nagai T, Hanew K, Horikawa R, Yorifuji T, Wada N, Tanaka T.	BMC Health Serv Res.	16(1):602	2016
Staging discrepancies between Hospital-Based Cancer Registry and Diagnosis Procedure Combination data Japanese	Takaoka M, Okuyama A, Mekata E, Masuda M, Otani M, Higashide S, and Higashi T	Journal of Clinical Oncology	46(8):788-91	2016

研究発表及び特許取得報告について

Pretreatment serum levels of interferon-gamma-inducible protein-10 are associated with virologic response to telaprevir-based therapy.	Yamagiwa Y, Asano M, Kawasaki Y, Korenaga M, Murata K, Kanto T, Mizokami M, Masaki N.	Cytokine.	88:29-36	2016
--	--	-----------	----------	------

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
該当なし				

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
該当なし				

特許取得状況について ※出願申請中のものは()記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
該当なし				

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。

※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと